

...ボランティアがつくるニュースレター...

発行…トラスト通信ボランティア
問合せ…(一財)世田谷トラストまちづくり

〒155-0031
世田谷区北沢2-8-18 北沢タウンホール
Tel・03(6407)3311 Fax・03(6407)3319
<http://www.setagaytm.or.jp/>

トラストネットワーク



No. 77 2017年9月

成城みつ池緑地・旧山田邸の公開

2016年2月1日世田谷区で80件目の区指定文化財となった旧山田邸が、耐震工事などを終えて去る5月2日一般公開されました。有形文化財(建造物)としては21件目です。



「成城学園前」駅西口から徒歩7分、ちょっと距離がありそうな数字ですが、素敵な街並みに見とれている間に着いてしまう距離です。

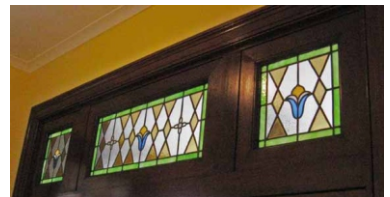
建てられたのは1937年、建築主は榎崎定吉という実業家だそうです。アメリカで事業に成功し、帰国後に建てた家と聞きました。

部屋は1階の女中部屋と2階の客間を除いてすべて洋室。1階にキッチン、ダイニングルーム、リビングルーム、2階には書院造風の和室の

他に家族やゲスト用のベッドルーム、小部屋、バスルームなどプライベートな部分が配置されています。窓が全て上げ下げ式だったり、ドアが引き戸ではなく全て開き戸で、所々にステンドグラスが使われていたり、床が寄木細工だったりするのもその頃の日本家屋には、一般的には見られないものでしょう。

そんな洋風な造りは、先の大戦後、進駐軍に接收され米兵家族の住居となりました。この家には女の子がいたのでしょうか、薔薇の花模様の壁紙が今も残っていて、最近貼ったようにきれいなのには驚きます。

1960年、榎崎さんはこの家を手放し、翌61年に画家



で「南画院」 玄関上部のステンドグラスの代表として活躍した山田盛隆(雅号・耕雨)氏が購入しました。

この瀟洒な洋館は、国分寺崖線に沿って建っています。都会的な住宅街にありながら、窓からも庭からも、蛍が自生するみつ池の鬱蒼とした森が見える所以です。世田谷の近代建築やまちづくりに関する展示が邸内にあり、成城の昔や発展の歴史を知るよすがとなります。

(所在地：世田谷区成城4-20-25)

77号の目次

成城みつ池緑地・旧山田邸の公開	1
玉川台二丁目五郎様の森市民緑地	2
せたがや散歩道	3
野川せせらぎ教室	6
枝豆の種まきと収穫	7
かわらばん	8

玉川台二丁目五郎様の森 市民緑地

世田谷区で14番目の市民緑地が4月1日に公開されました。「玉川台二丁目五郎様の森市民緑地」(世田谷区玉川台2丁目30番地)です。面積は617.08㎡ですが、隣の世田谷区の緑地3,005.94㎡と一体の樹林(合計面積3,623.02㎡)として保全公開されています。この市民緑地は、かつての屋敷林で古くから地域の方々から「五郎様の森」と呼ばれ、親しまれてきました。この呼び名は元所有者高橋氏のご先祖「高橋五郎衛門」の名前に由来しているそうです。



また、この市民緑地は、「せたがや百景83玉川台自然観察の森」(昭和59年10月)にも選ばれています。



西側の正門を入ると広場があり、左側に管理詰所。正面には東西二つの昆虫(カブトムシ)飼育舎(3.6m×4.5m)位の金網で覆われた建物があり、それぞれの飼育舎の中には、カブトム

シの幼虫が飼育されています。西舎の中には、40匹ほどの成虫が地面をはっていました。飼育舎には自由に入出入りできるので、夏休みになったら子ども達も集まって来るでしょう。

また、右側にはコンクリートブロックで囲まれた腐葉土置場があります。広場の左側の通路から奥に入ると、巨木が生い茂り鬱蒼とした林で、下草もあまり生えていません。外から見た感じではケヤキ等の落葉樹も多く見えたのですが、中に入るとシラカシ、マテバシイなどの常緑樹も多く見受けられました。

奥の真ん中あたりに東側の通用口があり、そこから南側は孟宗竹の林となっています。

東側の通用口のところからは、通路に綱が張ってあり、林の中に入らないようにしてありました。



土曜日の午前10時頃だったので、散歩をしているのは、幼子をつれた老夫婦か若いお母さん、又は犬をつれた人など数組だけでした。

若いお母さんの話では、「フラワーランドにもしよっちゅう行っているのですが、環八を渡らなくてもよいので、こちらもよいですね」とのことでした。住宅街にある森だけに、区民にとっては、本当に憩いの場所のようでした。

せたがや^大散歩道

てたくぶつく〜九品仏コース

[東コース]

① 丸山稻荷 所在地：奥沢 3-10



奥沢駅から南に続く商店街の二又路を右に進むと、左側に赤い鳥居と幟が目につきます。以前は屋敷稲荷でしたが商店街の祭神となっています。

② 新奥沢駅跡 所在地：東玉川 2-40



池上線雪谷駅から国分寺まで新路線延長計画が着手されました。昭和3年に諏訪分、新奥沢駅間は開通。だがその後目蒲線との

の交叉が不可能となり計画は挫折。

⑤ 奥沢本村由来碑 所在地：奥沢 1-6



古来からの伝聞を基本にしてこの石碑が作成されています。内容は、和田義盛^{*}の子孫が今から450年ほど前に奥沢に來住したと。(詳細は8頁参照)

⑥ 子安稲荷神社跡 所在地：奥沢 1-11



奥沢本村の氏神。明治42年の神社統合で奥沢神社に合祀されました。

⑦ 大音寺 所在地：奥沢 1-18



浄土宗の寺院、江戸中期に建立されました。この地域は

世田谷、目黒、大田の3区が接している珍しい場所です。

⑩ 道祖神 所在地：奥沢 3-20



道祖神と庚申塔2基が並んでいる。道を通る人々の安全を守る他に体や家を守る為の祈りがなされたのでしょう。

⑪ 源照寺 所在地：奥沢 3-26



奥沢駅近くの住宅街の中の禅寺、高德山源照寺です。宗派は曹洞宗。昭和11年奥沢4丁目に開いていた布教場が昭和23年に現在地に移り、本堂を中心として新しい寺院を建立しました。

⑫ 諏訪山遺跡 所在地：奥沢 3-43



奥沢駅の東側で住宅改築時に発見。住居跡からは縄文時代の土器が発見されています。

* 和田義盛(1147-1213)：平安末期～鎌倉初期の武将、鎌倉幕府の御家人

⑬ 海軍村跡 所在地 奥沢 2-33

昭和初期、海軍将官が数十世帯住んでいたのがこの呼称があります。現在その住宅は大部分建て替えられています。



構築された六郷用水、その推進者小泉次大夫が宿泊先とした旧家跡。旧家付近の六郷用水(丸子川)の流れ、石垣は初期の姿のままか？

⑭ 奥沢神社 所在地

：奥沢 5-22



古来から伝わる厄除けの大蛇、鳥居と拝殿内に飾られています。八幡神社として奥沢村の鎮守でした。境内の手習所が明治12年に八幡小学校

となり、「発祥の地」の石碑あります。

⑮ 豊川稲荷 所在地：奥沢 5-3



奥沢駅から目黒線に沿って田園調布方向に約50m行くと小じんまりとした社に出ます。

左側の石垣に寄贈者の氏名と業種が彫られ、往時がしのべられます。

[西コース]

⑯ 狐塚古墳 所在地

：尾山台 2-17 周囲を見



通せる崖地の中段にあり、そこに稲荷神社があったので狐塚と呼ばれています。

5～6世紀の古墳です。

⑰ 次大夫堀

所在地：尾山台 2-2



慶長6年から15年かけて、

⑱ 伝乗寺 所在地：尾山台 2-10



松高山法生院伝乗寺という、文禄年間(1592～1596)に建立された浄土宗の寺院。本尊は阿弥陀如来、立派な五重塔が目立ちます。



⑳ 宇佐神社 所在地：尾山台 2-11



伝乗寺の北側の山腹に道を隔てて建てられています。尾山村の鎮守として敬われています。

㉑ 八幡塚古墳 所在地：尾山台 2-11



このような標識では…。理由、期間などの説明が必要ではないでしょうか。

㉒ ほまれの桜跡 所在地：玉川田園調布 2-17



八幡小学校の校庭の真中に、日露戦争から無事帰還された方が植えた桜の大木がありました。「ほまれの桜」と呼ばれて親しまれていましたが、昭和33年に

校舎改築のため止む無く伐られました。

㉓ 奥沢台遺蹟 所在地：奥沢 6-17

現在は住宅街の中に、約5,000年前の縄文時代の遺蹟が発掘されています。



㉒の諏訪山遺蹟とも関連があるのでしょうか。

㉔ 浄真寺 所在地：奥沢 7-41



一般に九品仏と呼ばれています。本堂の正面の三仏堂に三品の阿弥陀如来像が置かれているので九品仏といわれています。本堂には釈迦如来像が置かれ構内は広く鐘楼、仁王門や多くの地蔵、庚申塔などが見られます。

㉕ 奥沢城跡 所在地：奥沢 7-41



奥沢城は浄真寺建立以前にありました。平地に土を盛り上げた土塁を砦としていました。現在この土塁が残されています

㉖ 鷺草の里 所在地：奥沢 7-4



浄真寺の北側一帯の九品仏川など湿地帯には鷺草が自生していたようです。

石碑は九品仏川緑道の一角に建っています。



野川せせらぎ教室 ～川の生き物さがし～

7月23日(日)午前9時半から、第47回「野川せせらぎ教室」が「(一財)世田谷トラストまちづくり」と「せたがや野川の会」との共催で開催されました。

最初に、主催者側の挨拶、本日のスケジュール、生き物の獲り方の説明等の後、いよいよ、たも網とビニール袋を受け取り、生き物さがし開始。



子どもたちは喜び勇んで川の中に。ところが強敵が待ち構えていました。水苔です。「ワーッ、滑る」という声があがりました。

それでも、参加者は魚を求めてそれぞれ漁場へ散り、網を入れて奮闘。「とれた」の聲に飛んで行ってみると、獲物はエビ。そのうちにだんだん深みの方に進み網を入れると、エビやメダカ等が獲れだしました。

「おーい。沢山獲れたぞ」という声に誘われて行ってみると、そこは、ヨシの藪の中にできた沼のようなところで、フナの稚魚、ハゼ、ザリガニ、ウシガエルのオタマジャクシなどが沢山獲れました。

後半は、ビジターセンターでのパネルゲーム。その内容は

- ① 成城近辺の野川の河川改修工事について。
- ② 成城付近の野川の特徴について。



③ 野川全体の特徴について(野川は国分寺から始まりますが、周囲に高い山はありません。湧水等を集めて次第に大きい川となっています。また街の中を流れているにもかかわらず沢山の生き物が棲んでいます等)。

④ 子どもたちが、野川に棲んでいる「生き物」を画用紙に描き、切り抜いて野川の地図に貼る作業。生き物図鑑を借り、図鑑と首っ引きでカニ、エビ、メダカ、フナ等を書き、熱心な子は、4回も5回も地図に貼っていました。

⑤ 予定していた浮沈子(ふちんし)作りは、時間がなくて、完成品を貰いました。

⑥ 外来生き物についての注意として「ミドリガメ等を飼う時は、死ぬまで面倒を見ること等」の話がありました。

最後にアンケート調査用紙に答えを記入して終わり。盛りだくさんの行事にビックリ。難しいと思われる話もありましたが、誰一人退出することなく、最後まで皆さん楽しそうに過ごしていました。

今回の参加者は、抽選で選ばれた16家族・37人(子ども20人、大人17人)で、「川の生き物さがし」に初めて参加した子どもは7割ほどでした。

枝豆の種まき・収穫体験

瀬田農業公園（分園）で枝豆の種まきと収穫の農業体験イベントが開催されました。

4月16日（日）種まき

午前10時から枝豆の種まきの農業体験イベント。当日の参加者は、抽選で選ばれた20家族・54名の方々と、半袖シャツ姿の若いお父さん・お母さんと幼児という構成でした。まず（一財）世田谷トラストまちづくりの主催者側の挨拶の後、農業指導員から種のまきかたの説明がありました。畑のビニールシートの穴の中央の部分に人差し指で穴を開け、豆の種を1粒ずつまくこと。また、作業が終了したら手を洗うことなどでした。

説明が終わると、各家族に種が8粒入った紙コップが配布されて、畑のビニールシートで覆われた畝の両側に整列しました。各家族が種をまく穴が8つ確保できるかを確認したのち、いよいよ種まき開始です。



ところが、畑の土は柔らかいので、幼児の小さい人差し指でも簡単に地面に挿し込むことはできるのですが、指を抜くと土がくずれて穴がふさがってしまいます。何回やっても同じ。これは想定外でした。最後の手段として両手で大きな穴を開け、お父さんに注意されたりしてやっと枝豆の種をまき、

土をかぶせて、作業は終了。当日は東京で今年初めての夏日だったとか。

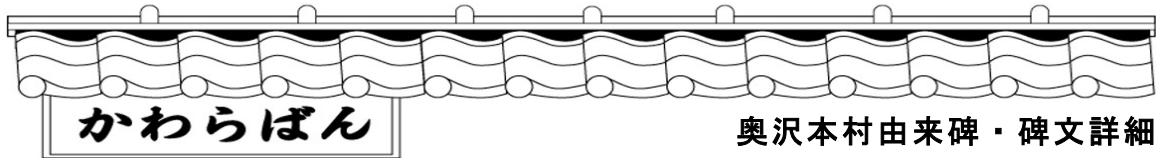
7月8日（土）枝豆収穫

午後2時から、過日、種まきをした枝豆の収穫体験イベント。今日も暑い日でしたが、先に種まきをした家族が、集合しました。畑では枝豆が大きく成長していました。

まず、係員から枝豆を収穫する際の注意。「枝豆の茎の部分をしっかりと握って引き抜いてください。根がいつぱいついてるので、頑張って。それから、枝豆は収穫後、3時間以内に茹でること。茹でる際に、塩と同じ量の砂糖を入れてください。それでは、各自5本ずつ収穫してください」という話の後、収穫開始。各自、丈が大きくて沢山実がついている枝豆をめがけて、いっせいに畑の中に。



お目当ての枝豆を見つけ、茎を引っ張っても、幼児の力ではびくともしません。お兄ちゃんやお父さんの力も借りてやっと収穫。満足そうな笑顔も次の枝豆を催促されて、また緊張。5本を収穫し終えた時は、汗だく。根を切り、葉を落とし、収穫した枝豆を袋に入れて、意気揚々と帰途につきました。



かわらばん

「開かれた庭」とは？

～緑の街づくり

7月23日(日)、宮本三郎記念美術館で首記テーマによる講演会が開催されました。主講師は堀内正弘さん。

宅地内の植栽で保たれている緑豊かな住環境を「開かれた庭」と名付け、次世代に引き継いでいくためのガイド冊子を発行したNPO法人「土とみどりをまもる会」の代表です。

「開かれた庭」とは、通りから見える緑を増やす様々な工夫のことで、高木である必要はありません。ガイド冊子はいくつかの実例を紹介し、新築時、改装時、あるいは庭づくりの際に役立てるようにしたいとのことでした。

会の後半は、小西さん(玉川田園調布住環境協議会)、中川さん(成城自治会)、小林さん(世田谷トラストまちづくり)の方々がそれぞれの小冊子を配布しながら、活動の説明をされました。

冊子の名称は「みどりの街づくりガイド」「みどりと花の CASE BOOK」「3軒からはじまるガーデニング支援制度」「成城みどりのスタイルブック」など惹き込まれるような感じがします。サイズも、A4判やA5判で持ち歩きに便利に出来ています。



奥沢本村由来碑・碑文詳細

せたがや散歩道(本紙3ページ)に紹介した石碑のを彫刻の本文を記します。

奥沢本村の由来

和田義盛の二男朝盛より八代の嫡流朝清元亀元年家臣十二名と共に武蔵の国荏原の里に来住江戸時代奥沢本村と稱し旗本渡邊某氏の領地(禄高二十二石)となる明治の初期東京府荏原郡玉川村大字奥沢となり本村の氏神正一位子安稻荷大明神は内務省例による明治四十三年十月二十四日奥沢神社に合社大正に至る昭和七年十月一日東京市に併入世田谷区玉川奥沢町一丁目となりその後東京都に統合

いきものさんぽ

彩草会



秋の代表的な花であるコスモスはメキシコが原産。秋桜の和名がある。

編集後記 この夏、外来種の「ヒアリ」が日本各地で発見されて大きなニュースになりました。取材の合間に「外来種」について調べてみると、日本の在来種が海外で外来種として問題になっていることが分かりました。北米ではコイ(錦鯉)や金魚が大型化して増殖しており、雑草のクズが広い地域に繁茂し、オーストラリアやニュージーランドの海岸ではワカメが異常に繁殖しているそうです。ニュースもよく調べると興味深い広がりを見せてくれます。

77号作成に関わったメンバー

大泉定雄 片寄正史 北畠明子 須永澄子
高梨麻実 田澤與光 野武一郎 宮下正雄